



# 日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 7月19日発行 第 6 号

そねはじめ事務所  
114-0032  
北区中十条2-11-6  
Tel:3907-1135  
Fax:3906-3225

## 一日も早い医療機構の設置と北社会保険病院の増築へ 「病院を拡充させる会」総会で運動継続を確認

### ●法はできたが未実施！「わが党の成果」という公明・民主に責任果たさせよう

北社保病院を拡充させる会の第4回総会が7月18日、赤羽北区民館に50人以上参加して開かれました。「地域医療機能推進機構（医療機構）」法の実現を確信にしながらも、売却組織廃止の先送り、その後も売却可能とされたことに警戒の声が相次ぎ、「存続が決ったのはわが党の成果」と手放しで宣伝している公明党・民主党にも、区長にも「早く医療機構の実現を」と働きかけ住民運動を継続しようと決めました。

### ●職員の要望を尊重してこそ緊急時に命を守れる

そねはじめ前都議は「病院が計画中の百床増築を早期実現へ。しかし北・豊島・板橋・練馬4区一括の病床規制に残り196床。病院不足の

総会に出席したそねはじめ前都議



北区と練馬で病院増設計画が進むと超えてしまう。石原都政に例外も認めさせるよう共産党もがんばります」と発言しました。

また「売却をやめきちんと運営させるためには、行政の援助と共に、病院現場で職員の要望を尊重し待遇改善してこそ、いざというとき仙台のように一丸になって命を守る仕事ができる。我われ地元住民の応援が今こそ必要です」と訴えました。

### 石原知事による五輪の 再立候補を批判

日本共産党都議団は、七月十六日、石原知事による二〇二〇年オリンピック正式立候補表明を批判し遺憾の意を表明しました。

問題は、知事自身が「勝たねば意味がない。東京は汗かいて血みどろになってカネつくるし施設も造る」と述べ、莫大な経費投入を公言していることです。一方で、知事も認めているように都民・国民の五輪招致を望む声は高まらず被災地はもつと深刻です。都議団談話では、被災者も含め納得できる復興や防災・福祉の取り組みが軌道にのる中で、世論が広がれば、開催都市も含めて検討するべき、と訴えています。

## 北区から東北被災地へ第4次ボランティア8月23・24日に 青年や女性の参加もおおいに広げて

6月と7月の3次にわたり、北区の共産党から被災地の石巻に救援ボランティアが延べ累計で48人参加してきました。区議団からはすでに女性3名を含め、6人の区議が現地に出かけて先頭に立っています。

### ★格安の参加費で、被災地もしっかり見てよう

8月は、旧盆を過ぎた8月23日（火）から24日（水）にかけて一泊で、多くの方が格安の費用で参加できるボランティア活動にとりくむ予定

です。（写真は無料お届けバザールのようす）支利物資の準備は共産党北地区の災対本部で行いますが、下記の物品について皆様のところに余っていれば是非ご連絡ください。

### ★ ボランティアで届けたい物品 ★

- ★野菜（日持ちするもの）・保存食品（かんづめ・レトルト・乾物）★防虫剤（ハエ取り紙や防虫スプレー）
- ★割り箸・石鹸・食器・プラスチック容器等★懐中電灯・ラジオ・ドライバーセットなど★赤ちゃん用品（お尻拭きやベビー服・乳母車）★高齢者のオムツ・尿漏れパッドなど★カセットコンロ・ボンベ★鍋・ヤカン・フライパン・土鍋★敷き布団（清潔なもの）・シーツ★（できるだけ新品の）Tシャツ・下着・靴下★



# “原発からいまこそ撤退を”訴え、駅・街頭で署名活動

## ●赤羽の東西口や王子駅で500人の署名集まる

＜7月9日赤羽駅で署名を呼びかけるそね前都議＞



福島第一原発事故の最大の教訓として、地震列島の日本には安全な原子力発電所は存在しないこと、いったん事故が起きれば他の災害・事故と異なりコントロール不可能な放射能で人命にかかわる重大な被害をもたらすことが明らかになりました。さらに発電後の大量の廃棄物「死の灰」の処理方法に見通しがありません。日本共産党は全ての原発を速やかに停止・廃止していくことを政府に決断するよう求め、国民的な論議を呼びかけています。

北区では、そねはじめ前都議や区議団を先頭に、駅や街頭、訪問での「原発ゼロをめざす」署名にとりかかっています。ご協力をお願いします。

## ●住民合意のない再稼働はストップが当然

九州の玄海原発をはじめ点検で休止していた原発を再稼働させるために姑息な“やらせメール”など卑劣なやり方の電力会社に批判が集まり、世論の力で再稼働のストップが相次いでいるのは当然です。

原発推進の財界や一部のマスコミなどが「このまま全ての原発が停止したら電力供給がパンクする」などと宣伝していますが、いつどのように需給バランスが崩れるのか具体的根拠は示せていません。

原発が全て停止しても節電施策と火力発電等の能力や自家発電で電力供給は可能との指摘もあります。何より福島事故を絶対再発させない国民あげての努力が日本の責任ではないでしょうか。

＜7月15日王子駅での署名行動＞



## そねはじめ交遊録 <その一>

### 政治学者M氏とすごした、懐かし恥ずかし“ながら族”時代

ちょっと前、「東京人」という雑誌に「我われの修学旅行の写真が出てるぞ」と小石川高校OBのメーリングで情報が回り、覗いて見ると「青春のラジオ深夜放送」特集で、高校で同級だった売れっ子政治学者M氏が当時の高校生活の思い出を書いている記事でした。私も文化放送の「パックインミュージック」などを夜じゅう聞きながら能率の上らない受験勉強をしていました。記事の写真は修学旅行と創作展（小石川の文化祭）のファイアーストームで、著者の、当時から特徴的な顔の向こうに私の姿も発見しました。

M氏の記憶の良さには感心しますが、彼が生徒にからかわれる教師の姿を書いた反面、私はむしろ素直に

影響を受けました。必ず昼前の授業で被爆者の残酷な姿を話したり、岩下志麻の成人映画を「卒業したらすぐ観ておけ」と語った国語教師、私の質問で答に窮した後で詫びた地学教師、定時制生徒のバリエードをなぜ学校が「生徒自身が納得するまで」撤去しないかコンコンと語った倫理の教師など、確かに深夜ラジオに夢中でぬるま湯につかっていたと同時に、時に大人の苦悩を垣間見せてもらったように思います。

